

小児歯科臨床における健康管理の実際について

緒方克也

緒方小児歯科医院・福岡市

小児歯科臨床での小児と接するときは常に成長の途上にあることを念頭におくことが常識であるが、小児歯科の領域で子どもと接する場合、より明確な意識で発育と発達を捉えなければならない。小児歯科の臨床では、小児の身体の発育と機能、および精神の発達と保健衛生を歯科の立場から援助し、指導を行うことを目的としている。したがって小児の歯科保健を実践するにあたっては、たとえ一本の齲蝕治療であっても生活して成長する小児の姿を意識して治療を行う必要がある。

さて、口腔の機能を考えると、消化器としての咀嚼、嚥下の機能、呼吸器としての気道、言語の発音や構音機能の他に、口唇や舌は乳児期には指と同様に、物を認知することによって脳が学習する窓口としての機能を持っている。また顔面の大切な部分を構成する口とその周囲は、感情、表情を表現する機能を有し、愛情表現機能も持っている。このように多彩な機能を持つ口腔とその周囲の発育と発達に、小児歯科では長期にわたる観察と指導を継続することが大切とされる。さらに機能的運動を獲得するためには形態学的な完成だけでなく、脳における学習がなされなければならない。また機能は正常と異常とに明確に分類が可能なものばかりではなく、生活するための機能としては問題ないが、理想的機能からすると異常の部類に入れられるなどといった矛盾も生じる。

一方、小児の齲蝕は小児自身の生活を背景として存在し、臨床における治療も小児歯科学の範疇だけでなく、社会学的な見方も必要となる。そこで演者は小児が健康で子どもらしい生活を営むための口腔機能という意味も含めて小児歯科臨床における小児の歯科保健の考え方を紹介する。